

エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社
2022年3月期 第3四半期
決算補足資料

2022年2月10日

I. エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社と
株式会社関西スーパーマーケットの経営統合スキーム

II. 当社連結業績への反映イメージ

III. 連結業績

1. 損益計算書
経営成績の概要
販売費および一般管理費
営業外収益・費用
特別利益・特別損失
2. 貸借対照表
3. 設備投資

IV. 業績見通し

1. 業績予想

V. 個別業績

1. 株式会社阪急阪神百貨店
2. イズミヤ株式会社
3. 株式会社阪急オアシス
4. (参考) 関西スーパー事業

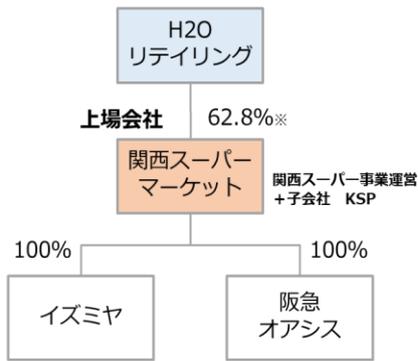
I. エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社と株式会社関西スーパーマーケットの経営統合スキーム

2021年12月15日付の株式交換により、イズミヤと阪急オアシスは関西スーパーマーケットの完全子会社となり、H2Oリテイリングは関西スーパーマーケットの親会社となりました。

また、2022年2月1日付で、関西スーパーマーケットは、関西フードマーケットに商号変更し、イズミヤ、阪急オアシス、新たに関西スーパー事業運営を担う新・関西スーパーマーケット(その子会社KSPを含む)を100%子会社とする中間持株会社に移行しております。

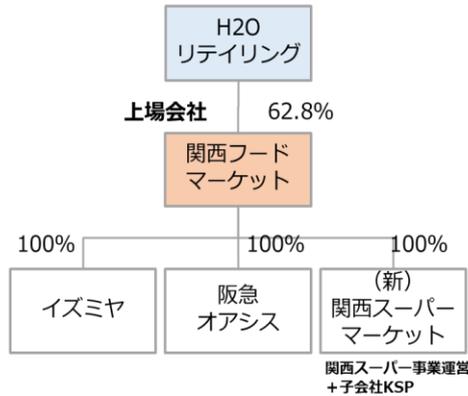
2021年12月15日

関西スーパーマーケット株式と
イズミヤ・阪急オアシスの株式交換



2022年2月1日

吸収分割によりイズミヤ、阪急オアシス、
新・関西スーパーマーケットを
完全子会社とする中間持株会社体制に



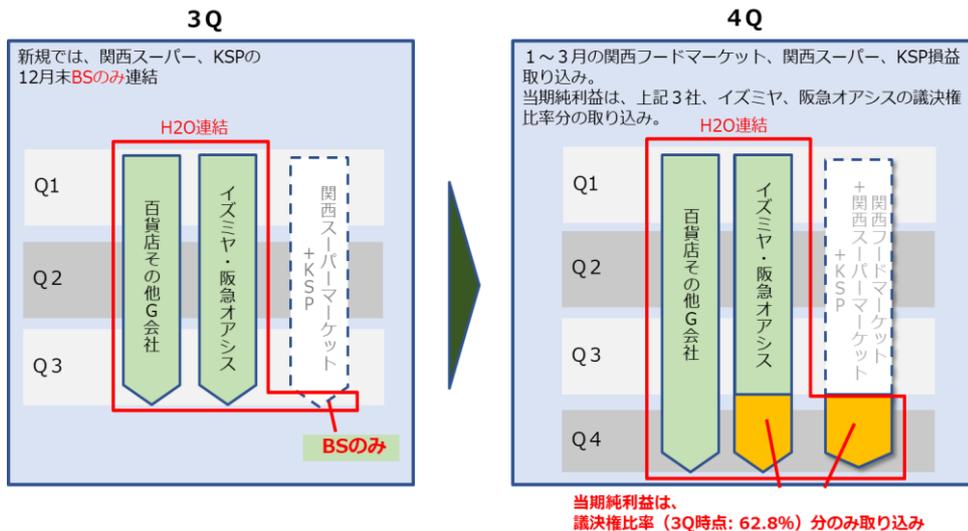
※株式交換に伴う反対株主からの買取請求を受けた関西フードマーケットの自己株式の増加により、3Q時点でのH2Oの議決権比率は62.8%

II. 当社連結業績への反映イメージ

第3四半期の連結業績に関西スーパーマーケット、KSPなどの業績は含まれず、期末時点のBSのみ連結対象となります。

第4四半期の連結業績には、1～3月の関西フードマーケット、関西スーパーマーケット、KSPの3社業績が新たに反映されます。親会社株主に帰属する当期純利益は、1～3月の関西フードマーケット及びその子会社の当期純利益の議決権比率分(3Q時点では62.8%)の反映となります。

(各決算期末日時点の商号で記載しております。)



Ⅲ. 連結業績

1. 損益計算書

<経営成績の概要>

(百万円)

	19/12 金額	20/12 金額	21/12		
			金額	前年比	増減
百貨店事業	370,615	252,727	282,457	111.8%	+ 29,729
食品事業	270,628	223,367	225,860	101.1%	+ 2,493
商業施設事業	6,169	51,366	34,748	67.6%	△ 16,617
その他事業	46,563	24,108	24,083	99.9%	△ 24
総額売上高	693,976	551,568	567,149	102.8%	+ 15,581
売上高	693,976	551,568	371,303	-	-
百貨店事業	10,696	△ 963	1,060	-	+ 2,023
食品事業	△ 1,100	4,466	3,926	87.9%	△ 540
商業施設事業	3,162	△ 102	380	-	+ 483
その他事業	3,628	△ 571	△ 2,618	-	△ 2,046
調整額	△ 4,495	△ 3,837	△ 2,029	-	+ 1,808
営業利益	11,891	△ 1,008	720	-	+ 1,729
経常利益	12,300	△ 101	2,012	-	+ 2,113
特別利益	857	3,010	22,578	750.1%	+ 19,567
特別損失	7,399	12,797	8,791	68.7%	△ 4,006
親会社株主に帰属する 四半期純利益	2,533	△ 8,109	12,937	-	+ 21,046

※1. 2022年3月期より報告セグメント区分「不動産事業」の名称を「商業施設事業」へと変更。

また、従来、その他事業に含まれていた株式会社阪急キッチンエール関西、株式会社エブリデイ・ドット・コム、
有限会社阪急泉南グリーンファームは食品事業に、株式会社大井開発は商業施設事業に移管。

前年実績は、変更後の報告セグメント区分に組み替え。前々年は、変更前の報告セグメント区分に基づく、実績値。

※2. 2022年3月期より収益認識に関する会計基準を適用し、消化仕入れ契約に基づく売上高等の計上方法を変更。

売上高に大きな影響が生じるため前年比および前年増減の記載をしていない。

なお、これらの会計処理方針の変更による影響を除外した前期までの売上高に相当する数値を総額売上高として記載。

<販売費及び一般管理費>

(百万円)

	19/12 金額	20/12 金額	21/12		
			金額	前年比	増減
人件費	71,565	60,813	60,963	100.2%	+ 150
賃借料	30,468	26,617	28,804	108.2%	+ 2,187
広告宣伝費	8,473	3,798	4,892	128.8%	+ 1,094
減価償却費	12,800	12,393	11,790	95.1%	△ 602
委託作業費	15,022	13,096	14,099	107.7%	+ 1,002
販売手数料	10,997	9,103	4,065	44.7%	△ 5,038
運搬費	11,849	11,336	11,159	98.4%	△ 177
その他	25,338	22,632	22,227	98.2%	△ 405
合計	186,515	159,791	158,003	98.9%	△ 1,788

※ 2022年3月期より収益認識に関する会計基準を適用。

< 営業外収益・費用 >

(百万円)

	19/12 金額	20/12 金額	金額	21/12	
				前年比	増減
営業外収益	3,280	3,984	3,823	96.0%	△ 161
受取利息	122	262	387	147.7%	+ 125
受取配当金	1,302	1,405	1,061	75.5%	△ 343
諸債務整理益	1,185	1,440	740	51.4%	△ 700
為替差益	-	173	997	573.5%	+ 823
その他	669	701	635	90.6%	△ 65

営業外費用	2,871	3,077	2,531	82.3%	△ 545
支払利息	577	616	708	115.0%	+ 92
商品券等回収引当金繰入額	942	1,182	594	50.3%	△ 588
持分法による投資損失	236	496	648	130.7%	+ 152
その他	1,115	782	579	74.1%	△ 202

※ 2022年3月期より収益認識に関する会計基準を適用。

< 特別利益・特別損失 >

(百万円)

	19/12 金額	20/12 金額	金額	21/12
				主な内容
特別利益	857	3,010	22,578	
固定資産売却益			13,123	中津・大淀等保有不動産売却
投資有価証券売却益			6,485	政策保有株式売却
助成金収入			2,823	雇用調整助成金等
負ののれん発生益			145	関西スーパー株式交換

特別損失	7,399	12,797	8,791	
新型コロナウイルス感染症による損失			4,040	阪急阪神百貨店
段階取得に係る差損			1,753	関西スーパー株式交換
固定資産除却損			1,288	阪急阪神百貨店、H2O商業開発
新店舗開業費用			636	阪神梅田本店
店舗等閉鎖損失			593	アズナス、阪急阪神百貨店
子会社株式売却損			400	ビーユー
減損損失			80	

2. 貸借対照表

(百万円)

	20/12末	21/3末	21/12末
現金及び預金	58,181	49,991	59,484
受取手形及び売掛金	66,096	54,385	76,658
棚卸資産	27,275	23,339	25,337
流動資産合計	162,200	139,291	173,508
有形固定資産	264,635	261,386	294,711
無形固定資産	18,278	16,729	16,536
投資その他の資産	199,872	208,538	210,455
固定資産合計	482,785	486,653	521,704
資産合計	644,986	625,945	695,212
支払手形及び買掛金	63,258	48,996	80,010
借入金及び社債	190,314	188,547	184,250
負債合計	403,504	396,667	432,347
株主資本	209,350	192,763	205,657
純資産合計	241,482	229,277	262,865
負債純資産合計	644,986	625,945	695,212

3. 設備投資

(百万円)

	21/12	
	金額	主な内容
百貨店事業	13,279	阪神梅田本店建替工事
食品事業	2,279	阪急オアシス新規出店、イズミヤ店舗改装
商業施設事業	1,498	エイチ・ツー・オー 商業開発 SC化推進
その他事業	2,539	エイチ・ツー・オー リテイリング(株)システム投資
調整額	△ 313	
合計	19,283	

※第3四半期連結会計期間末において、当社が株式会社関西スーパーマーケット、株式会社KSP、KS分割準備株式会社(2022年2月1日付で、株式会社関西スーパーマーケットは株式会社関西フードマーケットに、KS分割準備株式会社は株式会社関西スーパーマーケットに商号変更。)の3社を新規に連結の範囲に含めたことにより、建物及び構築物に9,739百万円、機械装置及び運搬具に252百万円、土地に21,074百万円、その他に2,526百万円計上。

また、当該計上額は、取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算定された概算額。

IV. 業績見通し

1. 業績予想

(百万円)

	第1-3四半期		第4四半期		通期	
	実績	前年比	予想	前年比	予想	前年比
百貨店事業	282,457	111.8%	101,542	106.8%	384,000	110.4%
食品事業	225,860	101.1%	99,339	143.2%	325,200	111.1%
商業施設事業	34,748	67.6%	8,751	64.1%	43,500	66.9%
その他事業	24,083	99.9%	8,216	86.1%	32,300	96.0%
総額売上高	567,149	102.8%	217,850	116.1%	785,000	106.2%
売上高	371,303	-	143,697	-	515,000	-
百貨店事業	1,060	-	△ 860	-	200	-
食品事業	3,926	87.9%	1,073	-	5,000	122.3%
商業施設事業	380	-	△ 380	-	0	-
その他事業	△ 2,618	-	△ 981	-	△ 3,600	-
調整額	△ 2,029	-	△ 570	-	△ 2,600	-
営業利益	720	-	△ 1,720	-	△ 1,000	-
経常利益	2,012	-	△ 1,513	-	500	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	12,937	-	△ 1,938	-	11,000	-

※1. 2022年3月期より報告セグメント区分「不動産事業」の名称を「商業施設事業」へと変更。

また、従来、その他事業に含まれていた株式会社阪急キッチンエール関西、株式会社エブリデイ・ドット・コム、
有限会社阪急泉南グリーンファームは食品事業に、株式会社大井開発は商業施設事業に移管。

前年実績は、変更後の報告セグメント区分に組み替え。

※2. 2022年3月期より収益認識に関する会計基準を適用し、消化仕入れ契約に基づく売上高等の計上方法を変更。

売上高に大きな影響が生じるため前年比および前年増減の記載をしていない。

なお、これらの会計処理方針の変更による影響を除外した前期までの売上高に相当する数値を総額売上高として記載。

※3. 第4四半期の食品事業には、1～3月の関西フードマーケット、関西スーパーマーケット、KSPの3社業績を含む。

親会社株主に帰属する当期純利益は、1～3月の関西フードマーケット及びその子会社の当期純利益の
議決権比率分(3Q時点では62.8%)を含む。

V. 個別業績

1. 株式会社阪急阪神百貨店

<経営成績>

	(百万円) 3Q累計			(百万円) 3Q単体		
	金額	前年比	増減	金額	前年比	増減
総額売上高	280,578	111.8%	+ 29,693	127,417	111.9%	+ 13,595
売上総利益	63,855	110.8%	+ 6,199	29,309	111.0%	+ 2,901
(売上総利益率)	22.76%	-	△0.22pt	23.00%	-	△0.20pt
その他の営業収入	2,341	108.9%	+ 191	867	105.9%	+ 48
販売費及び一般管理費	65,230	107.5%	+ 4,530	25,098	101.4%	+ 354
(販管费率)	23.25%	-	△0.95pt	19.70%	-	△2.04pt
営業利益	966	-	+ 1,860	5,079	204.5%	+ 2,595
(営業利益率)	0.34%	-	-	3.99%	-	+1.80pt

※収益認識に関する会計基準適用前の数値を記載。

<店別経営成績>

	(百万円、千人)			
	金額	前年比	入店客数	前年比
阪急本店 ※1	146,169	115.7%	18,487	105.6%
阪神梅田本店 ※2	19,628	95.1%	10,094	94.3%
千里阪急	9,899	103.7%	2,908	103.3%
高槻阪急 ※3	13,838	101.0%	5,507	99.5%
川西阪急	9,247	101.0%	3,366	103.2%
宝塚阪急 ※5	5,314	106.2%	-	-
西宮阪急	16,323	107.3%	7,706	104.6%
三田阪急 ※4※5	433	56.1%	-	-
神戸阪急 ※3	21,781	104.8%	8,773	102.4%
博多阪急	30,633	126.7%	13,924	126.0%
阪急メンズ東京	7,108	111.4%	947	132.9%
大井食品館	3,448	98.8%	-	-
都筑阪急	2,455	108.5%	1,670	109.6%
あまがさき阪神 ※5	2,239	105.3%	-	-
阪神・にしのみや	3,190	103.8%	2,782	100.8%
阪神・御影	383	108.4%	3,385	107.7%
支店計	126,297	108.8%	54,030	107.8%
全店計	292,095	111.1%	82,612	105.4%

※1. 阪急メンズ大阪を含む

※2. 阪神梅田本店は10月8日に建て替え先行オープン

※3. 百貨店の売上高と専門店取扱高(11,517百万円)の合計。

※4. 三田阪急は8月1日に閉店

※5. 入店客数計測器を設置していないため

<商品別売上高>

(百万円)

	金額	前年比	構成比
紳士服・洋品	21,542	106.6%	7.4%
婦人服・洋品	33,057	112.2%	11.3%
子供服・洋品	5,442	105.8%	1.9%
その他の衣料品	5,663	104.4%	1.9%
衣料品	65,706	109.1%	22.5%
身の回り品	54,196	119.5%	18.6%
家庭用品	7,751	114.3%	2.7%
食料品	92,775	106.0%	31.8%
食堂・喫茶	4,319	127.7%	1.5%
雑貨	53,886	117.7%	18.4%
サービス	1,032	110.4%	0.4%
その他 ※	12,427	95.8%	4.3%
合計	292,095	111.1%	100.0%

※その他に神戸阪急と高槻阪急の専門店取扱高(11,517百万円)を含む。

<月次売上高の推移>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
阪急本店 ※1	422.9%	65.7%	108.6%	118.8%	86.3%	96.8%
阪神本店	251.9%	78.9%	82.4%	85.7%	31.8%	57.8%
支店計	258.6%	132.3%	99.1%	106.8%	91.4%	94.9%
全店計	313.6%	101.3%	102.5%	111.0%	84.4%	93.1%

	10月	11月	12月
阪急本店 ※1	107.8%	119.3%	123.5%
阪神本店	90.5%	114.6%	135.3%
支店計	101.9%	102.2%	103.9%
全店計	103.7%	111.5%	115.8%

※ 阪急メンズ大阪を含む

<業績予想>

(百万円)

	第1-3四半期		第4四半期		通期	
	実績	前年比	予想	前年比	予想	前年比
総額売上高	280,578	111.8%	103,421	109.6%	384,000	111.2%
営業利益	966	-	△ 766	-	200	-

※収益認識に関する会計基準適用前の数値を記載。

2.イズミヤ株式会社

<経営成績>

(百万円)

	金額	前年比	増減
総額売上高	105,548	104.1%	+ 4,120
売上総利益	27,660	104.2%	+ 1,108
(売上総利益率)	26.21%	-	+0.03pt
その他の営業収入	7,862	88.4%	△ 1,027
販売費及び一般管理費	33,226	102.4%	+ 782
(販管費率)	31.48%	-	△0.51pt
営業利益	2,296	76.6%	△ 701
(営業利益率)	2.18%	-	△0.78pt

※収益認識に関する会計基準適用前の数値を記載。

店舗数	76 (前年 +2)
-----	------------

<開閉店の状況>

開店	-
閉店	上新庄店(大阪府)、百舌鳥店(大阪府)

<月次売上高の推移>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
既存店	92.9%	99.4%	100.7%	99.2%	94.3%	99.6%

	10月	11月	12月	3Q累計
既存店	99.5%	95.0%	95.0%	97.2%

<業績予想>

(百万円)

	第1-3四半期		第4四半期		通期	
	実績	前年比	予想	前年比	予想	前年比
総額売上高	105,548	104.1%	33,203	105.1%	138,752	104.3%
営業利益	2,296	76.6%	113	116.3%	2,410	77.9%

※収益認識に関する会計基準適用前の数値を記載。

3. 株式会社阪急オアシス

<経営成績>

(百万円)

	金額	前年比	増減
総額売上高	83,997	99.4%	△ 517
売上総利益	23,172	102.4%	+ 543
(売上総利益率)	27.59%	-	+0.81pt
その他の営業収入	5,436	100.8%	+ 43
販売費及び一般管理費	26,879	102.0%	+ 539
(販管费率)	32.00%	-	+0.83pt
営業利益	1,730	102.8%	+ 47
(営業利益率)	2.06%	-	+0.07pt

※収益認識に関する会計基準適用前の数値を記載。

店舗数	76 (前年 -1)
-----	------------

<開閉店の状況>

開店	神戸三宮店(兵庫県)
閉店	枚方出口店(大阪府)、あびこ店(大阪府)

<月次売上高の推移>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
既存店	94.2%	100.7%	106.3%	102.3%	101.9%	102.4%

	10月	11月	12月	3Q累計
既存店	101.5%	99.1%	94.4%	100.1%

<業績予想>

(百万円)

	第1-3四半期		第4四半期		通期	
	実績	前年比	予想	前年比	予想	前年比
総額売上高	83,997	99.4%	25,783	98.2%	109,781	99.1%
営業利益	1,730	102.8%	162	-	1,892	124.9%

※収益認識に関する会計基準適用前の数値を記載。

4. (参考)関西スーパー事業

<経営成績>

(百万円)

	金額	前年比	増減
総額売上高	97,805	100.0%	△ 36
売上総利益	22,785	95.5%	△ 1,068
(売上総利益率)	23.30%	-	△1.08pt
その他の営業収入	1,511	102.5%	+ 36
販売費及び一般管理費	23,065	101.8%	+ 413
(販管费率)	23.58%	-	+0.43pt
営業利益	1,231	46.0%	△ 1,445
(営業利益率)	1.26%	-	△1.48pt

※1. 株式会社関西スーパーマーケット(2022年2月1日に株式会社関西フードマーケットに商号変更)及び株式会社KSPの2社からなる連結数値(収益認識に関する会計基準適用前)

※2. 見積りによる計上方針の一部見直しに伴い、売上総利益が一時的に378百万円減少するが、通期損益への影響はなし。

店舗数	64 (前年 ±0)
-----	------------

<開閉店の状況>

開店	-
閉店	-

<月次売上高の推移>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
既存店	95.6%	105.2%	105.9%	99.1%	100.0%	99.8%

	10月	11月	12月	3Q累計
既存店	99.2%	99.6%	96.8%	100.0%

<業績予想>

(百万円)

	第1-3四半期		第4四半期		通期	
	実績	前年比	予想	前年比	予想	前年比
総額売上高	97,805	100.0%	31,253	100.4%	129,059	100.1%
営業利益	1,231	46.0%	1,436	2660.9%	2,668	97.7%

※1. 通期の関西スーパー事業は、期中において関西スーパー事業を担う会社に変更が生じているため、

下記の3社の各期間の業績からなる連結数値を記載(収益認識に関する会計基準適用前)

2021年4月1日～2022年1月31日の株式会社関西スーパーマーケット(注1)

2022年2月1日～2022年3月31日の株式会社関西スーパーマーケット(注2)

2021年4月1日～2022年3月31日の株式会社KSP

(注1)現・株式会社関西フードマーケット(2022年2月1日に商号変更)

(注2)2022年2月1日にKS分割準備株式会社から商号変更

※2. なお、会社分割により別会社となった株式会社関西フードマーケット(2022年2～3月)を含めた場合の

売上高は129,059百万円、営業利益は2,231百万円。

(経営統合に伴う一時費用および外形標準事業税の増加によって、販売費及び一般管理費が約6億円増加)